

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 4 月 9 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350270

研究課題名(和文) 震災を語り継ぐ映像記録・ビデオ教材の開発

研究課題名(英文) Production of Documentary Films to Preserve the Story of the 3/11/11 Disaster

研究代表者

栢窪 優二 (TOCHIKUBO, YUJI)

椋山女学園大学・文化情報学部・教授

研究者番号：60465507

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：東日本大震災の被災地、宮城県石巻市の映像記録(6分程度)を日本語版26本・英語版1本、計27本を制作した。被災地の復興に向けた現状を記録した映像ドキュメンタリー(17分～30分)を4本制作した。これらの映像は全てインターネットで公開した。防災教育などのビデオ教材として小中学校、高校、大学で活用されると共に、被災地の震災資料館等で上映展示されている。

研究成果の概要(英文)：27 documentary films (26 in Japanese, 1 in English) roughly 6 minutes each in duration were produced which deal with various aspects of how the Great East Japan Earthquake and Tsunami of 3/11/11 affected the city of Ishinomaki in Miyagi Prefecture. An additional 4 films of 17-30 minutes each were produced which focus on the current state of the disaster area as it attempts to recover from the devastation of that day. All of the films have been made available for general viewing on the Internet. They are also being used as educational resources in Japanese elementary schools, high schools, and universities, as well as such places as reference libraries in the disaster area.

研究分野：社会学

キーワード：大震災 映像記録 宮城県石巻 防災教材

## 1. 研究開始当初の背景

東日本大震災による死者・不明者は1万8千人。テレビ報道は一定の役割は果たしたが、災害報道という視点では様々な課題が浮き彫りになった。震災報道は、復興支援や防災対策の策定、防災意識の向上のため、正確な事実を伝えるほかに、バランスの取れた継続性、長期的な視点が求められる。しかしテレビ報道は、現実直面する目の前の報道が優先され、長期的な視野に立った震災の映像記録を残すことは難しいのが現状である。千年に一度の大震災の教訓を次世代に正確に伝えることは容易なことではないようだ。

## 2. 研究の目的

そうした現状を踏まえ、ジャーナリズムの視点で、被災地の復興に向けた実証的な映像記録を制作し、それを使って東日本大震災を次世代に語り継ぎ、復興支援や防災意識の向上、防災対策の策定を促進しようという目的で研究計画を立案した。

## 3. 研究の方法

### (1)被災地の取材・撮影

宮城県石巻市とその周辺を取材フィールドにして、研究期間である2013年度～15年度に計14回の現地取材を実施した。1回の取材は3日～5日の日程で行い、AVCHDカメラを使ってハイビジョン映像で記録した。取材・撮影は石巻市門脇町のほか、市街地から離れた大川小学校や隣接する女川町、牡鹿半島の半島部などを中心に実施した。

### (2)映像記録の制作

映像記録は現地で取材・撮影したあと、映像編集をして、ナレーションを収録、音声調整・音響効果、字幕スーパー処理をして、作品を完成させた。本研究では原則として映像記録=ビデオ教材という方針で、映像記録が震災を語り継ぐビデオ教材になるように構成した。インターネット動画公開を前提に作品1本の長さを5～6分程度に設定し、シリ

ーズ映像を流用する形で長さ30分程度のドキュメンタリーも制作した。作品テーマは、復興に向けた地域の動き、被災地の現状や課題、住民や関係者の思い、などを映像で伝えるようにした。映像記録1本の制作に要する期間は取材・撮影(2日間)+編集・仕上げ(2日間)=計4日間と決め、1年間に映像記録=5本を制作する方針で研究計画を立てた。

### (3)映像の発信・活用

映像はインターネット公開を前提に企画・制作した。取材段階では事前に対象者に、映像のネット公開の同意を確認して進めた。

## 4. 研究成果

### (1)映像の制作

本研究では、インターネット公開を前提とした1本の長さが5～6分の映像記録を26本、インターネット公開と共に映像祭等への参加を意識して制作したドキュメンタリーを4本、海外へのネット発信をめざして英語のナレーションと字幕スーパーを入れた英語版コンテンツを1本制作した。作品リストは下記の通りである。

### (2)映像記録の制作作品リスト

- ・「被災地・石巻の復興～震災から3年目」(5分47秒)、2013年7月
- ・「かんばろう! 石巻～地元住民の思い」(5分00秒)、2013年7月
- ・「石巻川開き祭り～震災3年目の夏」(5分00秒)、2013年8月
- ・「震災後の金華山をこども記者が取材」(6分30秒)、2013年8月
- ・「石巻のお魚事情～2013年夏」(4分30秒)、2013年8月
- ・「3年目の冬～震災被災地・石巻」(4分40秒)、2013年12月
- ・「震災から3年～被災地・石巻」(5分23秒)、2014年3月
- ・「震災から4年目～被災地 宮城・石巻」(6分15秒)、2014年7月
- ・「大川小学校の今～被災地 宮城・石巻」(6分55秒)、2014年7月
- ・「4年目の夏から～被災地 宮城・石巻」(5分50秒)、2014年8月
- ・「夢は日米の架け橋～テイラー・アンダーソン記念基金」(6分40秒)、2014年8月

- ・「地域を再生へ～4回目の冬 宮城・石巻」  
(6分20秒)、2015年1月
- ・「地域情報を伝える」  
(5分00秒)、2015年4月
- ・「犠牲者の思いを伝える」  
(5分30秒)、2015年4月
- ・「津波被災・記者が語る」  
(4分55秒)、2015年4月
- ・「新しい地域メディアを作る」  
(5分15秒)、2015年4月
- ・「鉄道が全線開通～5年目の春・石巻」  
(4分30秒)、2015年6月
- ・「震災被災地は復興へ～5年目の夏・石巻」  
(5分10秒)、2015年8月
- ・「5年目のボランティア～震災被災地 宮城・石巻」 (6分30秒)、2015年8月
- ・「ふれあい農園・4年目～宮城・女川町の現状」 (6分16秒)、2015年9月
- ・「石巻魚市場が完成～防災への備え」  
(6分36秒)、2015年9月
- ・「5年目の冬・石巻～復興への歩み」  
(6分20秒)、2016年1月
- ・「海が見える町～宮城・女川町の復興」  
(6分20秒)、2016年1月
- ・「震災から5年～3.11石巻の1日」  
(5分30秒)、2016年3月
- ・「震災から5年・復興の歩み～石巻の映像記録」(6分30秒)、2016年3月
- ・「3.11そして未来へ石巻市民のメッセージ」  
(4分15秒)、2016年3月

### (3)ドキュメンタリーの制作作品リスト

- ・「地域の絆を発信へ～女川・復興農園の願い」(17分15秒)、2013年7月
- ・「絆の駅・石巻～復興3年目の春」  
(23分45秒)、2013年7月
- ・「津波には負けない!!～石巻・住民の思い」  
(17分00秒)、2014年7月
- ・「6枚の壁新聞から4年～被災地・石巻の願い」(29分30秒)、2015年7月

### (4)英語版コンテンツの制作作品リスト

- ・「“To Be a Bridge Between Our Two Nations”  
～The Taylor Anderson Memorial Fund～」  
(6分40秒)、2014年10月

### (5)映像のインターネット公開

完成した映像記録は順次、椋山女学園大学 YouTube サイトと栃窪研究室サイトでネット公開した。椋山 YouTube サイトへのアクセス

数は2016年3月末現在で約3万件であった。動画のなかで最もアクセス数が多かったのは、「大川小学校の今」(2014年7月公開)で約1万2千件であった。

### (6) 資料館等での上映展示

ネット公開した映像記録は、上映展示を希望する資料館等に対して個別にDVD版にして提供した。石巻市にある「絆の駅・石巻ニューゼ」ではDVD版を利用して2013年1月より上映展示がスタートした。この資料館は石巻日日新聞社が震災復興に向けた地域の交流拠点として開設したもので、館内では常時長さ6分程度の映像記録を5本～10本程度、連続リピート上映している。また石巻市にある「石巻 3.11 あすのためのミュージアム」でも館内展示を希望していて、2015年9月までに制作した震災記録=計33本を収録したりリピート上映できるDVD版を提供した。

### (7)教育現場での活用

制作した映像記録は、大学や高校・小中学校で教材として活用している。このうち代表研究者が活用したのは下記の通りである。

- ・椋山女学園大学文化情報学部の専門教育科目「ジャーナリズム論」、「テレビ制作概論」、「取材活動論」、「現代社会とジャーナリズム」の教材として活用。(2013年度～)
- ・椋山女学園大学の全学共通科目「安全学」で防災教材として活用。(2015年度～)
- ・あいちの大学「学び」のフォーラム(高校生向けの東日本大震災を語り継ぐ講座)の教材として活用(2013年度)

このほか代表研究者からの映像提供をもとに、私立高校(埼玉県)が修学旅行の事前研修教材として利用したほか、地元・石巻の小中学校で防災教育の教材として活用された。また中国・温州大学(専門学校)で日本事情や日本語の教材としても活用された。

### (8)まとめ

本研究は映像で震災被災地の現状を語り継ぐことを第一の目標に取り組んできた。その結果、制作した映像記録(ビデオ教材)は当初の研究計画より多く、制作実績から見ると順調に研究が進んだ形になっている。また取材フィールドに宮城県石巻市とその周辺を選定したことは、現時点では正しかったと判断している。石巻市には震災被災地の抱える様々な問題が凝縮されていて、都市規模がある程度大きいので、復興に向けた変化を映像で明確に捉えることができた。制作者として映像記録を自己評価すると、限られた取材・撮影の時間や制作日程のなかでは、まずまずの内容を維持できたと考えている。ただし、もっと映像で明確に変化が浮き彫りになる切り口を積極的に取り上げることができなかつたのか、という企画面での反省点はある。震災から3年を過ぎたころから石巻では映像でわかる変化は少なくなってきた。映像記録としては外観的な変化だけでなく、地元の人たちが何を思い、何を感じているのか、という被災者の内面的な視点も伝える必要がある。そこで2014年度からは地元のメディア関係者へのインタビュー取材も積極的に取り入れて、映像記録を構成するようにした。映像記録としては、大変難しい段階に入ってきたと感じている。

震災から5年が経過したが、被災地では大勢の人が仮設住宅で生活している。本研究は終了したが、現地での取材を通して、こうした震災を映像記録で残すことは、震災後10年は継続する必要があると感じた。震災を映像で語り継ぐこと、その映像をインターネットで発信することは、社会へのメッセージ性が強く、メディア情報、なかでも映像ジャーナリズムを専門にする研究者としては、今後も継続する社会的な使命がある。取材・撮影でお世話になった被災地の関係者に感謝の気持ちを持って、今後

も取り組みたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0 件)  
[学会発表](計 0 件)  
[図書](計 0 件)

[産業財産権]  
出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等(映像記録を公開)

椛山女学園大学 YouTube

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLSh8ziKtq8lgFr7uG\\_qL9nZKWfq5A1IPL](https://www.youtube.com/playlist?list=PLSh8ziKtq8lgFr7uG_qL9nZKWfq5A1IPL)

椛山女学園大学 析窪研究室サイト

<http://tochikubo.ci.sugiyama-u.ac.jp/eizo/index.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

析窪 優二 (TOCHIKUBO, Yuji)  
椛山女学園大学・文化情報学部・教授  
研究者番号: 60465507

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: